

- 1 派遣期日 平成23年10月14日(金)
- 2 研修先 学校名 横浜市立桜岡小学校
所在地 横浜市港南区大久保1-6-43
www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sakuraoka

3 研修内容

平成23年度 第53回関東音楽教育研究会神奈川大会
大会主題 「音をつなぐ 心をつむぐ」
～音楽能力の高まりを目指し 生涯楽しむ音楽を求めて～

(1) 「音をつなぐ」音楽科指導の実践

「音をつなぐ」音楽科指導とは、大きくは、次の2点を目指す指導である。

第1 美しい音楽を個人やみんなで創り出す

第2 生涯にわたり豊かな音楽活動を行うための基礎的な能力を身につける

これらの音楽科指導を進めるにあたっては、小学校・中学校の音楽指導の連続性を重視し、次の3点の視点をもって授業改善を行うことが必要ととらえている。

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力の育成
- 主体的な学習態度の育成

学習指導の改善を進めるにあたって、横浜市では「学習の主題」による題材構成のもと、様々な教材曲などを用いた表現活動や鑑賞活動を通して、多様な音楽のよさや美しさに感動したり、音楽活動そのものを楽しんだりしながら、音楽的な感受や理解をスパイラルに深めている。その学習過程で、子どもの意欲を引き出し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている。

(2) 「心をつむぐ」音楽科指導の実践

「心をつむぐ」音楽科指導で大切にしたいことは、次の3点である。

第1 音楽活動を通し、人とのよりよい関わりにより、豊かな心をつくっていく。

第2 音や音楽によるコミュニケーションの充実

第3 音楽科の学習に即した言語活動の充実

友達や周りの人とともに、一つの音楽をつくっていく体験を通して、音楽活動の喜びや協働する喜びを感じ取り、生涯にわたって音楽を愛好するための素地となる基礎的な能力を育成していくことを目指している。斉唱や合奏、合奏、音楽づくり・創作で、友達や周りの人とともに表現を工夫しながら音や心を合わせて表現する力を高めます。また、音楽とともに鑑賞することを通して、演奏のすばらしさや音楽のよさ、美しさを分かち合う喜びを味わえるようにする。

こういった音楽活動の質的な高まりや深まりを求めて、音や音楽によるコミュニケーションの充実を図るとともに、音楽科の学習に即した言語活動の充実を図ることを大切に指導する。子どもが〔共通事項〕を窓口として楽曲の特徴、演奏のよさなどを感じ取り、それを言葉や体の動きなどで表し、音楽のよさや美しさに気づき、それらを味わえるように指導を進めている。

この「心をつむぐ」音楽科指導と「音をつなぐ」音が指導とを一体に行い、授業の改善を進めている。

(3) 学習指導の改善

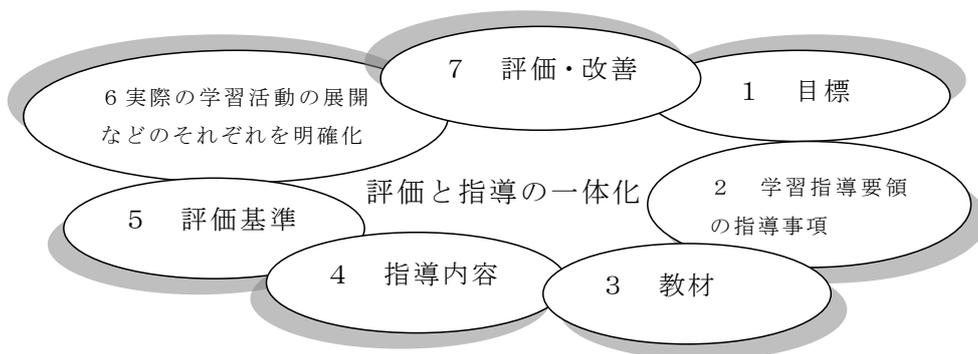
視点① 音楽的な感受や理解をスパイラルに深めていく指導の充実

指導のねらいや手だてを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の課程を大切にしたい学習指導を進める。技術面のみに偏った活動や、音楽を聴いて漠然と感想を述べる活動に陥ることなく、子どもが主体的に表現と鑑賞の学習に取り組み、音楽科の目標を真に実現していくことを目指す。

視点② 個や集団の実態に応じた指導

生涯にわたり豊かな音楽活動を行うための基礎的な能力を身に付けさせるために、学習指導要領の内容（事項）を、基礎的指導内容として把握し、一人ひとりの子どもにその内容を定着させるために指導方法を工夫している。

視点③ 指導と一体となる目標に準拠した評価の推進



子ども一人ひとりが生涯にわたり豊かな音楽活動を行うための基礎的な能力を身につけられるようにするために、指導と一体となる目標に準拠した評価を4つの観点から進めている。

(4) 第1学年音楽科授業参観より

① 学習の主題について

「音楽の仕組みを生かし、簡単な音楽をつくろう」～ミソラのおとでおはなししよう～主題の目標は、音を音楽にしていくことを楽しみながら音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくることであった。

音遊びなどを通して、音を音楽にしていくことを楽しみながら、問いと答えや反復などの音楽の仕組みを生かし、「こんな音でおはなししたい」など、思いをもって簡単な音楽をつくることをねらいとしていた。

② スパイラルに学習していることの成果

本時の目標は、音素材の音の面白さに気付き、ミソラの音を使って音遊びをしたり、旋律づくりをしたりすることであった。前回の学習でリズム問答や旋律遊びなどの音楽ゲームにすでに慣れており、スムーズに活動が進んでいく。手回し遊びや短いリズムづくりに慣れ親しみ、拍の流れにのって楽しみながら活動できている。チューンド・パーカッション・チューブを使って、音遊びや旋律遊びをグループで模索しながら楽しみながら学ぶことができていた。

4 感想

- (1) 音楽的な感受や理解をスパイラルに深めていく指導が充実しており、子どもの意欲を引き出し、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図ることができていることに感心した。また、様々な教材曲等を用いた表現活動や鑑賞活動をしており、子どもたちの興味・関心が継続し、また深まっていくような授業づくりを常に意識していると感じた。
- (2) 第6学年の授業には、中学校音楽の教師も一緒に指導しており、小中連携の授業を実現させていた。「小中9年間で大切にしたい子どもの姿」が各領域において考えられており、共通の課題や意識をもって、指導にあたっていることは、大変有効にはたらいっていると感じた。また、どの学年の授業においても、個や集団の実態に応じた指導がなされており、個として集団としての成長を丁寧に教師が手助けしていこうとする姿勢は素晴らしいものであった。